

むこ投げすみ塗り

1月15日 松之山温泉 薬師堂にて開催

プログラム

- 午後2時 湯守処「地炉」をおむこさんが出発
 - ・地元新婚さんは有志が担ぎ薬師堂まで登ります。
 - 一般応募の方は同行の担ぎ人と薬師堂まで登ります。
- 午後2時半 むこ投げ
 - ・地元むこ→一般応募 の順に投げ落とします。
- すみ塗り会場へ移動 —
- 午後3時 すみ塗り
 - 1.温泉組合長挨拶
 - 2.祈願（無病息災、商売繁盛）
 - 3.手廻（三本廻）
 - 4.お神酒
 - 5.宝みかん（福袋若干名に進呈）
 - 6.火入れ式
 - 7.万歳
 - 8.すみ塗り開始
 - 9.終了（残り火でスルメ焼きなど）



●むこ投げ

江戸時代のころから天水越地区に伝わる小正月行事でヤブ入りの1月17日朝に行われていた小正月行事ですが、今は隣の湯本地区に引継ぎ1月15日の午後行われています。昔は前年にこの集落からお嫁さんをもらった他の集落のお婿さんがヤブ入りに初めて泊まりに来ると、むこ投げの洗礼をうけたそうです。お嫁さんを追い出すなどの粗末な扱いを禁じた風習とも言われ、また、よそ者に集落の娘をとられた地元青年達の腹いせや羨みなどから行われたとも言われています。松之山湯本にある薬師堂の5mほどある崖の上から豪快にお嫁さんを投げ落とす行事ですが、豪雪地帯のこの土地では雪がクッションとなるのでケガをすることはありません。お嫁さんは崖下にいる見物客のひやかしや笑いの声そして雪から這い出す夫を新妻が助けることで新婚夫婦の絆がより深くなるようにと願う笑顔の絶えない温かな行事です。

●すみ塗り

正月に飾った門松やしめ飾り、神棚のお札や書初めなどを持ち寄り、雑木と稲わらで作った高い塔の元に集めます。神主が祈りをささげた後、ここへ火をつけ家業の繁栄と無業息災を祈る「どんど焼き」とも言われる行事。

むこ投げを行う「薬師堂」を参拝した後、厳かに火入が行われます。「どんど焼き」は各集落でも行われていますが、ここからが奇祭たる由縁なのです。

火が燃えつきるころ、そこでできた灰と雪を掌で混ぜ合わせスミをつくり、誰かれとなく「おめでとう」と言いながらお互いの顔にスミを塗り合います。誰なのかすぐに見分けられないほどスミを塗られますが、みんな笑顔。真っ黒になればなるほど、お祝い効果が高いともいわれています。汚れても良い服装でぜひ参加してください。